8 特　定　部　会

部会長

国立療養所鈴鹿病院　　河　野　慶　三

特定部会では、筋ジストロフィーを中心とする筋萎縮性疾患の実態調査報告が主として行われてきた。この領域での研究は、再春荘、南九州病院、刀根山病院、鈴鹿病院が中心となっているが、各施設のおかれている状況に応じて、それぞれ異なった方法で実施されている。

再春荘は、熊本大学の協力のもとに学童検診を徹底して行い、熊本県下の筋ジストロフィー患者挙握の努力を続けてきた。泉らの報告によれば、熊本県下ではこのような実態調査の方法が定着したと考えてよいだろう。

南九州病院も、鹿児島大学と共同して、沖縄、鹿児島、宮崎各県の実態調査を継続している。対象地域が3県にわたっているため、多大の労力を要するフィールドワークとなっているが、現在まで手つかずの状態であった南九州3県の実態が、患者実数、病型分類などの点ではほぼ明らかにされたと言ってよい。熊本県も含めて、この地域の筋ジストロフィー有病率は4～6であった。九州地区で行われたこのような調査は、人の移動の激しい大都市圏をかかえる地域での実施が困難であり、貴重なデータとなった。

鈴鹿病院では、名古屋大学と共同で愛知県下の筋ジストロフィー患者の検診を実施してきた。この検診は、患者実数の把握よりも患者の病態の継年的変化の追跡と、その時点における療養指導に重点をおいたものである。河野らは、検診の具体的実施法と現在直面しているいくつかの問題点につき報告した。愛知県下では、重症在宅患者に対する訪問検診も行われるようになってきたが、この訪問検診も、すでに述べた日常的活動の一つの発展型であると考えられる。

この領域における上記3施設の活動は、いずれも地域の大学との共同作業として行われていることが特徴であり、両者の協力による対社会的活動として評価されてよい。

刀根山病院では、昨年にひきつづき、大阪府下の在宅成人患者に対する個人面接が実施されている。

在宅患者に対する医療面でのケアーの必要性の認識は、徐々に高まりつつあるが、このような活動の積重ねにより、その基礎資料が完備されることを期待したい。

検索用テキスト　OCR（光学的文字認識）ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

特定部会では、筋ジストロフィーを中心とする筋萎縮性疾患の実態調査報告が主として行われてきた。この領域での研究は、再春荘、南九州病院、刀根山病院、鈴鹿病院が中心となっているが、各施設のおかれている状況に応じて、それぞれ異なった方法で実施されている。

再春荘は、熊本大学の協力のもとに学童検診を徹底して行い、熊本県下の筋ジストロフィー患者挙握の努力を続けてきた。泉らの報告によれば、熊本県下ではこのような実態調査の方法が定着したと考えてよいだろう。